

8903 このところ週に二回、夜一時間半・・・

このところ週に二回、夜一時間半ほど英会話を学んでいる。まだ三ヶ月しか経っていないが、自分でもよくつづくものだと感心している。きっかけは、近所に英語をもちろん、日本語まで上手に操れるチャーリー夫妻が住んでいて、かれらと知り合いになったことだ。教えてくれるのは旦那さんのほうで、教えてもらうのは私と私の友人のふたり。

三ヶ月学んだ私の感想はこうだ。「なるほど中学校で教えてもらった英語でも本当に通じるんだなあ。」

丸山健二『英語再び』

#### [許容訳例]

Recently I have been learning English conversation for an hour and a half in the evening twice a week. It is only three months since I started, but I am impressed a lot by the fact that I have continued the lessons so long.

The start of it all was that a man called Charlie and his wife, who can speak Japanese well, not to mention English, live in our neighborhood and that I got acquainted with them. The teacher is the husband and the students are I and a friend of mine.

The impression I have after three months' lessons is that you really can make yourself understood even with the English you learned at junior high school.

#### [翻訳例]

Recently I've been learning English conversation for an hour and a half in the evening twice a week. It's only three months since I started, but I can't help feeling pleased with myself for having continued so long.

What started it all was getting to know a man called Charlie and his wife who live in the neighborhood and -- besides their own language, English -- can handle Japanese well. It's the husband who does the teaching and I and a friend of mine who are the students.

The impression I have after three months of lessons is that you really can make yourself understood even with the English you learned at junior high school.

■このところ週に二回、夜一時間半ほど英会話を学んでいる。(8903)

★「このところ」は「最近」ということで、recently を普通に使うと思います。of late もいいのですが、ちょっと古いというか文学的な感じがします。もし使うとすれば文頭において Of late, … とコンマを付けると思います。それから、lately は微妙な違いなのですが、recently がいわゆる「最近」という意味で普通に使うのに対して lately は「(前はこうだったが)最近は」というニュアンスが入ってくるような気がします。ですから、例えば I haven't seen him recently. という場合でしたら lately も同じように使えますが、Recently I have caught cold

many times. という場合に lately を使うのはちょっと無理です。逆に Lately I haven't caught cold many times. なら自然です。つまり、「(前はよく風邪をひいたが)最近はあまりひかない」ということになります。

★ 「週に二回」は twice a week ですが、 twice weekly という言い方もあります。ついでですが、 weekly とか monthly を副詞として単独で使っても間違いではありませんが、あまり使いません。

★ 「夜」は in the evening ですが、 夕食後の場合なら at night でもかまいません。

★ 「一時間半ほど」は for an hour and a half でしょう。「ほど」(or so)は強いて入れる必要はないと思います。

★ 「英会話を学んでいる」は「最近(recently; lately; of late)」が含まれるので、 過去時制か現在完了ですが、 ここでは現在完了進行形で I've [I have] been learning English conversation…です。なお、 下に「友人と」と出てきますが、 この段階では、 主語は we ではなく I でいいでしょう。また、「学ぶ」は、 ここでは人に教わるわけですから study ではなく learn の方がいいです。

■ まだ三ヶ月しか経っていないが、 自分でもよくつづくものだと感心している。 (8903)

★ 「まだ三ヶ月しか経っていない」は、 日本文の「まだ・・・しか」を only で表して It is only three months since we started. とするのが英語的です。なお、 started to learn とする必要はありません。それから It has been…でも間違いではありませんが、 ここは It is…の方がいいです。 It has been…とすると、 何となく長かった期間を振り返っているような感じがします。いつも述べることですが、 現在完了の根本は何らかの感慨を込めるための主観表現です。それから started の代わりに began も使えないことはないですが、 これは何か決まった course を始めたという感じになります。

### ● [が] (「逆接」の強調)

この [が] は「逆接」なので but ですが、 後の文の中に「[が (へそれにしても)] 自分でもよくつづくものだ・・・」という含みが感じられて、 逆接のコントラストが強調されているように思われる所以 even so…くらい加えて but even so としておきたいと思います。

★ 「自分でも」は「自分でも感心している」とセットになっていますから、「感心する」をどう表現するかで変わってきます。下の「・・・と感心している」を参照。

★ 「よくつづくものだ」は「と感心している」をどう表現するかに関わってきますが、「・・・と」は「理由」ですから for continuing [having continued] so long でしょう。 so long の代わりに longer than I expected も考えられますが、 これは「どうせ長続きはしないと思って始めたのに意外に長く」ということになってしまいますから、 ちょっとずれる気がします。ここは so long くらいでいいでしょう。

★ 「自分でも (・・・と) 感心している」は、 平易な言葉を使うと I can't help feeling pleased with myself for…とか I admire [can't help admiring] myself for…などでしょう。

### ● 抽象名詞を好む英語文 (自分でもよくつづくものだと感心している)

「自分でもよくつづくものだと感心している」は非常に訳しにくいところです。何でもないような言葉を小刻みに幾つも使うという典型的な日本語の表現だと思います。ところが英語の場合は、かなりリラックスした文章、あるいは会話でも、出来るだけアイディアを一つにまとめられるような難しい単語を使おうとする傾向があります、例えば、ここでは persistence とか perseverance という単語を使って「自分でもよく続くものだ」を my own persistence [perseverance] とかで表せるわけです。このことはこういう隨筆風の文章を英訳する場合の一つのこつと言ってもいいと思います。ということは、逆にこのような抽象名詞を使って書かれた英文を日本語に訳す場合、そのまま抽象名詞として訳すると固くなってしまいますから、平易な日本語におきかえる工夫が必要になるということになります。ここでそういう難しい言葉を使わないので訳すとすれば、例えば、even so I can't help feeling pleased with myself for continuing [having continued] so long.とか、but even so I admire [can't help admiring] myself for continuing so long.です。あるいはもう少し簡潔に訳すとすると、今述べた抽象名詞を使って I can't help admiring my own persistence [perseverance] となります。それから impress を使うのなら、… I impress myself with my own persistence です。impress という動詞は普通 impress somebody with something という形で、例えば He impressed me with his skill at English.（彼の英語の上手なのに感心した。）のように使う動詞です。

■きっかけは、近所に英語をもちろん、日本語まで上手に操れるチャーリー夫妻が住んでいて、かれらと知り合いになったことだ。（8903）

★「きっかけは…ことだ」の「きっかけ」にそのままぴったり相当する英語はないと思います。場合によっては「動機」という意味で motive を使うこともあります、ここでは無理です。ここは、たとえば、What [The thing that] prompted me to start was getting to…という表現を使えばいいと思います。この getting…は動名詞（…したこと）を表します。また、prompt は芝居やオペラなどで使う「プロンプター」という言葉で類推がつくと思います、「…するよう促す」という意味です。あるいは、もう少し簡単に What started it [all] was…つまり、「そもそも始めは…」という表現です。なお、What made me start in the first place was that…としても英語らしい表現でいいです。また、The start of it all was that…としても何とか意味はわかると思います。

★「近所に」は in the [our] neighborhood とか near us でしょう。

★「英語をもちろん、日本語まで上手に操れる」は、ちょっと日本語として不自然です。多分「(母語の) 英語はもちろん、日本語も上手に操れる」ということでしょうから besides their own language, English they can speak [handle] Japanese well [fluently] でしょう。あるいは they can speak Japanese fluently [well], not to mention English としてもなんとか許されるでしょう。

★「チャーリー夫妻」は Charlie というような「呼び名」(別称) に Mr. and Mrs. は付けないので、ここは a man called Charlie and his wife というしかありません。ただ、Mr. and Mrs.

Charles を使って「～という人」という意味で a Mr. and Mrs. Charles のように不定冠詞 a を付ける手はあります。あるいは a couple called Charles でもいいです。

★ 「～と知り合いになった」は、got to know ~とか became acquainted with ~です。

● 「連体修飾節」と「隠れ連体修飾節」の処理

「近所にチャーリー夫妻が住んでいて、かれらと知り合いになった」であるなら、日本語の情報順に A man called Charlie and his wife live near us and we got to know [became acquainted with] them とすると日本語通りの順序なのですが、この日本文には「英語をもちろん、日本語まで上手に操れる（チャーリー夫妻）」という連体修飾節が加わっていること、先頭の「近所に」は離れた後方の「住んでいて」に続くものですから、情報を整理すると「きっかけは近所に住んでいて、英語をもちろん、日本語まで上手に操れるチャーリー夫妻と知り合いになったことだった」と連体修飾節が二つ並んで「チャーリー夫妻」を修飾していることになります。したがって、英語では「名詞(a man called Charlie and his wife) + 関係詞節(, who live in our [the] neighborhood [near us]) + 関係詞節(and who besides their own language, English can speak [handle] Japanese well [fluently]) とすることになります。

■教えてくれるのは旦那さんのほうで、教えてもらうのは私と私の友人のふたり。(8903)

★ 「教えてくれるの」は「教えてくれる人」ですから the teacher です。

★ 「旦那さんのほう」は「旦那さん」と考えれば the husband です。

● [で] (併置)

こここの [で] は「併置」ですから and です。

★ 「教えてもらうの」は「習う人」つまり「学生」と考えれば the students (「私と私の友人」ですから複数) です。

● 「隠れ連体修飾節」(・・・の)

日本語の「連用形 (・・・する [である]) + の (格助詞)」は「節の体言化」ですから、実質は「連体修飾節 (教えてくれる・教えてもらう) + 体言 (人)」ですから、英語では「名詞 + 関係詞節」になります。ですから日本語に近付けるのなら It's the husband who is the teacher [does the teaching] and I and a friend of mine who are the students [taught].となります。

■三ヶ月学んだ私の感想はこうだ。(8903)

★ 「三ヶ月学んだ (私の感想)」は、英語的には「三ヶ月学んだ後 (私の感想)」ですから after three months' lessons です。

★ 「私の感想」は the impression です。なぜ my impression ではないかは、次の説明を参照してください。

● 「連体修飾節 + 体言」(三ヶ月学んだ私の感想)

「三ヶ月学んだ私の感想」の格助詞「の」も問題です。ここは「三ヶ月学んだ後に私が持った [抱いた] 感想」を縮めたものです。したがって、「連体修飾節 (三ヶ月学んだ後に私が持った [抱いた]) + 体言 (感想)」となります。英語では、「名詞(the impression) + 関係

詞節((which) I have after three months' lessons)」となります。my impression I have…と言ふと、Michael Swan が Practical English Usage で述べているように「過剰修飾」となります。なお、have は状態動詞なので I have で「今持っている [抱いている]」となります。たとえば form というような動作動詞を使うと the impression I have formed (形成して今持っている感想) と現在完了にしなければなりません。

★「～はこうだ」は～is this: …として、直接話法の文を続けても間違ひではありませんが、それでは「そういう言い方をしたのか」といううことに関心があるように感じられてしまいます。ここでは言い方に関心があるわけではないので、英語では間接話法を続けることになりますから The impression… is that…とする方が自然です。

■「なるほど中学校で教えてもらった英語でも本当に通じるんだなあ。」(8903)

★「なるほど」は I see. でいいですが、省いてもいいでしょう。

★「中学校で」は at junior high school ですが、when you were junior high school students と書くこともできます。you にしたのは、ここは、当事者だけではなく、むしろ一般的な話として述べているととらえて we は避けて you を使った方がいいからです。

### ●「連体修飾節+体言」(教えてもらった英語)

「教えてもらった英語」は「習った英語」ですから「連体修飾節(習った)+体言(英語)」で、英語では「名詞(the English)+関係詞節((which) you learned)」です。

### ◆冠詞の有無(the English…と English…)

上で English に定冠詞を付けたのは、後に you learned at ~が続く場合、この English は the amount of English とか the English ability という意味、つまり、その本人が持っている具体的なものになりますから、the が必要になります。ですからこの場合、you をとれば、English learned at ~ (～で学習する英語) という一つの抽象概念になりますから the を付けなくてもよいということになります。

★「でも」は even でいいでしょう。

★「本当に」は really です。

★「通じるんだ」は can make yourselves understood がいいでしょう。

### ●間接話法で書く

英語では、むやみやたらに地の文に直接話法(You really can make yourself understood even with the English you learned at junior high school.)を混じらせるることは好みません。ですからここも間接話法にするのが好ましいのですが、「なるほど中学校で教えてもらった英語でも本当に通じるんだなあ。」とは、当事者だけではなく、むしろ一般的な話として述べているととらえて you を使った方がいいでしょう。そして The impression I have… is that you really can make yourselves understood even with the English…と間接話法で訳した方が英語らしくなると思います。